

目次 ■ ■ ■

1	会社のスタートはまず届出書の提出から	4
2	青色申告法人になって税の特典を受けよう	5
3	会社は納める税金のデパート	6
4	確定申告書の提出及び納付はいつまで	7
5	決算利益と所得金額との関係	8
6	収益の計上時期は一定のルールを継続適用する必要がある	9
7	売上原価の見積計上はOK、販売管理費の見込計上はNO	10
8	中小法人のさまざまな優遇制度	12
9	特定同族会社には留保金課税が適用される場合がある	14
10	役員給与には損金になるものとならないものがある	15
11	減価償却資産は耐用年数の期間に応じて費用配分する	17
12	減価償却費の計算方法には定額法と定率法がある	19
13	少額な減価償却資産は一時の損金処理が可能	20
14	交際費は全額損金不算入	22
15	売掛金等の債権が回収不能となったとき(貸倒損失)	24
16	金銭債権が部分的に回収不能と見込まれる場合(貸倒引当金)	25
17	法人税・加算税などの税金は損金とならない	27
18	源泉徴収した所得税は預り金	28
19	課税されない現物給与	29
20	消費税は預り金、小規模事業者には簡易な計算方法がある	31



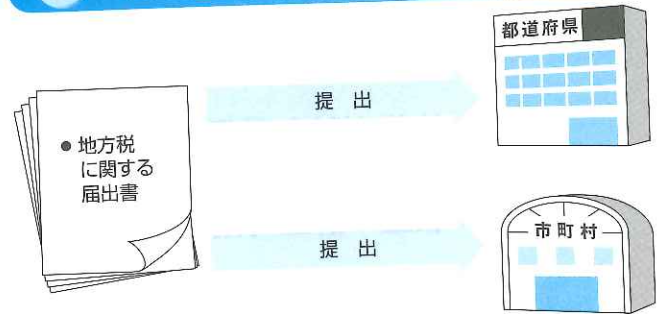
会社のスタートはまず届出書の提出から

法人税・消費税・事業税など国税・地方税に関する各種の届出書・申請書を、税務署などに提出する必要があります。
また、提出することにより税の特典を受けられるものがあります。

1 国税に関する届出書



2 地方税に関する届出書



3 届出書類

(1) 税務署への提出書類

提出書類	提出期限
① 法人設立届出書	設立の日以後2ヶ月以内
② 棚卸資産の評価方法の届出書	設立第1期の確定申告書の提出期限
③ 減価償却資産の償却方法の届出書	同上
④ 給与支払事務所等の開設届出書	事務所開設の日から1ヶ月以内
⑤ 青色申告の承認申請書	設立以後3ヶ月経過日と設立第1期の終了日とのいずれか早い日の前日

法人設立届出書は設立の日以後2ヶ月以内に都道府県・市町村にも提出する必要があります（登記事項証明書等の添付が必要です）。

(2) 消費税の特例を受けたいときに提出する書類

提出書類	提出期限
① 簡易課税制度選択届出書	適用を受けようとする課税期間の初日の前日 ^(注1)
② 課税事業者選択届出書	適用を受けようとする課税期間の初日の前日 ^(注1)
③ 課税期間特例選択届出書	短縮にかかる課税期間の初日の前日 ^(注2)
④ 課税売上割合に準ずる割合の適用承認申請書	随時 ^(注3)

(注1) 設立1期分については、課税期間の末日までに提出します。
(注2) 届出により、課税期間を3ヶ月または1ヶ月ごとの期間とする特例が設けられています。
(注3) 所轄税務署長の承認を受けた日の属する課税期間から適用されます。

(3) 労働保険や厚生年金等、労務関係の届出書類

届出先	提出書類	提出期限
① 年金事務所 (健康保険・厚生年金保険)	新規適用届	事業開始後速やかに（登記事項証明書・給与規程の写しを添付）
② 労働基準監督署 (労災保険)	・ 適用事業報告 ・ 労働保険関係成立届 ・ 就業規則の届出 (従業員10名以上の場合)	・ 事業所開設後遅滞なく ・ 適用事業所となってから10日以内 ・ 就業規則作成後すぐ
③ 公共職業安定所（ハローワーク） (雇用保険)	適用事業所設置及び被保険者資格取得届	労働保険関係成立届が受理された後すぐ



青色申告法人になって税の特典を受けよう

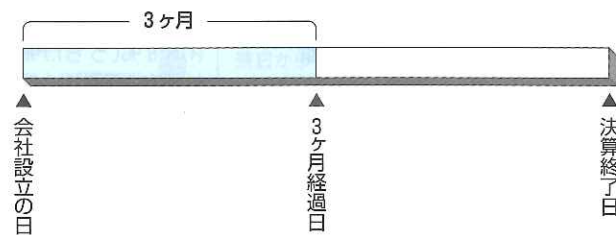
青色申告法人は、当期に生じた欠損金が次期以降9年間にわたり所得から控除できるなど税法上各種の特典を受けられますので、青色申告の承認申請書を提出期限までに提出しましょう。

1 青色申告の承認申請書



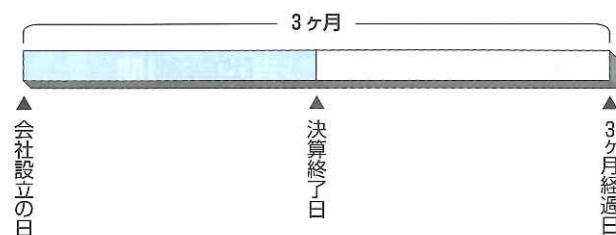
【提出期限】 設立以後3ヶ月経過日と設立第1期目の決算終了日とのいずれか早い日の前日

(例 1)



この場合の提出期限は、3ヶ月経過日の前日

(例 2)



この場合の提出期限は、決算終了日の前日

2 青色申告法人の特典

特典の内容
① 青色申告書を提出した事業年度以後に生じた欠損金を次期以降9年間にわたり所得から控除できる制度の適用
② 中小企業者等の少額減価償却資産の一括損金算入の特例制度の適用
③ 各種の特別償却制度の適用
④ 各種の税額控除制度の適用

3 青色申告の要件

(要件 1)



(要件 2)



知-ズ-ア-ッ-プ

【繰越欠損金】

繰越欠損金の繰越しは税務計算上の金額ですので、損益計算書上の欠損金額と間違えないように注意してください。

繰越欠損金は
税法上の
欠損金額ダヨ

